◆日時/3月7日金 15時30分から ◆問い合わせ/教育振興課総務係

います。

◆場所/第2委員会室(自由に傍聴できます)

☎0952-75-8022



多久から発信!SDGs⑩

紫北 式

部・和泉式部・小式部の物

語

挿 絵 11

最終回

沈丁花

蕾をうけて 春を待

私の心は あの日のままで

梶原恵美子

市

民

文

芸

多久家資料『小しきふ(小式部)』を編集

子どもたちを笑顔にする 学校給食をめざして」

れるように工夫した献立を考えています。 はもちろん、苦手な食材を子どもたちが食べてく 給食を心がけ、 さんあります。この恵まれた地場産物を活かした また「お誕生給食」「食育の日」「リクエスト給食」 多久市や佐賀県には、全国に誇れる産物がたく 成長期に欠かせない栄養量の確保

など、 業に学級担任等と連携し、 関する指導を行ったり、 います。 味・関心を高めてほしいと思い、給食を実施して 学校においては、 様々な給食を通して子どもたちに食への興 給食時間に各クラスで、食に 学級活動や家庭科等の授 授業に参画したりして

ことができました。 様のお役に立つと共に学校給食への理解も深める した。栄養教諭として講話や調理実習を行い、皆 ターの養成講座で講師としての機会をいただきま したスポーツ栄養教室やファミリーサポートセン 他にも、 多久市において後期課程生徒を対象に

宣旨でしたので、小式部は参内し、

ことはりや かれてはいかに ひめこ

の宣旨がありました。和泉式部は丹後国にいたため、小式部の内侍が、「先 びくと聞いている。和泉式部を急ぎ召して、松の祈りに歌を詠ませよ。」と

御門が寵愛された小松が枯れ、これを惜しまれ、「神も草木も歌の道にな

次の物語は、小式部の名を高らしめた内容で、

『古今著聞集』

ゃ

など多くの著作に採用されています。

す私が詠んで献上します。」と奏上しました。「急ぎ詠んでみなさい。」との

ち遠しくなるような魅力ある給食づくり」に努め 鑽をし「安全・安心なおいしい、子どもたちが待 めざし、日々「生きた教材」である「献立」の研 たいと思います。 これからも「子どもたちを笑顔にする給食」を

たので、

小式部は御褒美を賜りました。[挿絵1]

れてはどうするのですか姫小松よ(永遠の命を帝にお譲りするのが まつ 干世をばきみに ゆづると思へば] (道理で当たり前のことですよ

あな

俳句

寒紅を

耕し

0

枯

《大石ひろ女選》

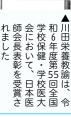
寒鰤や

冬晴や

たの役目だと思いますのに)と詠みました。 すると、小松は生き返り栄え

東原庠舎中央校

川かれ 栄養 田だ 教 孝たか 孝たか 子こ



3 すべての人に 健康と福祉を

『小式部(下)』挿絵11 小式部が活躍する話(2)





小式部が詠んだ「ことわりや」の歌の力で小松が 生き返り、御門から褒美の宣旨がありました。

締めくくられています。 に賞賛されました。ですから、 見たこともありませんし 部は〔おほへ山 のだと、意地悪く言う人がおり、 しだて] (大江山を通って ところが、この和歌は母親の和泉式部が、娘の小式部のために送ったも いくの^みちの とをければ まだふみもみず 生野へ行く道は遠いので まだ丹後国の天橋立を 母からの文も見ておりません)と詠み、 是非とも歌の道を嗜むべきですと、物語は 帝からお訊ねがありました。 そこで小式 あまのは 帝は大い

多久市郷土資料館長 藤井伸幸 ※原本の挿絵は色絵になっています。郷土資料館に写真を掲示しています

川 柳 《多久川柳会 互選》

好

運

0

鬼よりも

ので、お立ち寄りの際にご覧ください。

短 歌 《麦の芽短歌会 互選》

中

玉

0)

訪問先での

誕生会

山茶花の 一つ咲き初む 裏庭に

この冬の灯の ともる心地

信がする。

あの時消せしは 幾本なり

親切を すればするほど 幸せに 満たされている 自分に気付く 節まり 隆かゆき

の明けぬ 園舎に灯 点りおり 降り積む雪が 園児ら待ちいむ 嘉恵

夜

菜の花や 色の深まる 黄八丈

おやはな

玄界難の 新品の靴 波の音 弾 が音 本における 則の

富を軽し 明約

鍬につきたる 土落とす 武な 律り

引きて心の 灯を点す 大石ひろ女

言い勝って 心の中を 風が吹く 松ました

修記

・かけて 逃げられた恋 しゃぼん玉 女神を連れて 陥没恐い 列島か 孫が 東る 和ず

追い

か来る。ちかこうない。

◆寒い寒い 私こたつで 石になる

田代まつこ